

**【職権乱用愛撫】卑劣な警察官による強制身体検査
～手錠で繋がれた密室、罪の代償は心まで暴かれること～**

サンプル（一部抜粋）

「...君。今、商品を鞆に入れたね？
出しなさい。」

「おっと。逃げようとしても無駄だよ。」

「これ、警察手帳。
確認したね？」

「僕はね、自分の手で触って、自分の目を見たものしか信じないんだよ。」

「それにこれは救済でもあるんだ。
このまま君を交番に連れて行って、親御さんと呼んで会社や学校に連絡する事だって出来る
んだよ。」

「それをせずに、僕が今調べてあげてるんだよ。
理解できたかな？」

「動いた瞬間に反抗とみなす。
いいね？」

「...いい子だ。まずこのスカート。
ポケットは右と左に一つずつか。」

「君が怪しい反応をするからいけないんだよ。
中也確認させてもらわなければ。」

「...もう何も盗んでないって？
なら、見せられるはずだろう？」

「...しーっ。外には店主がいるんだよ。
少し大人しくしなさい。」

「これ以上、罪を重ねたくはないだろう？
...次、反抗したら容赦しないからね。」

（手錠を取り出す金属音）

「...僕が全身をくまなく探し終えるまで、大人しくしておいてもらおうか。」

「...よく濡れているな。これだけ濡れていれば...中に何かを仕込む事も出来そうだな。」

（全容は製品版にて）